

山中康司「テクニカル分析に強くなるオートチャーティスト」 更新日：5月17日



1982年慶応義塾大学卒業後、アメリカ銀行に入行。トレーディング業務に従事し、1989年バイスプレジデント。1997年日興証券に移り、1999年日興シティ信託銀行為替資金部次長。2002年金融コンサルティング会社アセンダントを設立、取締役役に就任。

## ■オートチャーティストとは

オートチャーティストとは SaxoTraderGO で取引できる商品のチャート分析を自動で行い、確率が高いと考えられる売買戦略を表示する取引支援ツールです。チャート分析はテクニカル分析でも最も基本かつ重要なチャートパターン（各種の反転、継続パターン）、キーレベルパターン（トレンドライン）、フィボナッチパターン（リトレースメント等）が完成した場合、あるいは形成中に一覧表示されます。一覧表示では、各種パターンの詳細、取引を行う場合のターゲット等の情報が表示され、表示する情報をフィルターで絞り込むことが可能です。この売買戦略レポートでは、この一覧表示の中から翌週にも有効と考えられる通貨ペアを毎週3通貨ペア、ピックアップしていくこととします。

- [10分でできるオートチャーティスト・クイックマニュアル](#)
- [オートチャーティスト・完全ガイド](#)
- [オートチャーティスト・チャートパターン分析入門](#)

## ■先週のレビュー

まず、先週のストラテジの振り返りです。前回はシグナル点灯直後に逆に動いた通貨ペアを積極的にピックアップしてみましたがどうなったでしょうか。

（1）NZDJPY の買い（シグナル点灯 5月9日）TP=76.95、SL=75.84

先週執筆時点のレートが 75.997、その後のレンジは 75.589～75.367 とその日のうちに SL の水準へと到達しました。もともとの SL の水準が 75.94 でしたが、執筆時点で本来のエントリー水準よりも売られていたことから SL を 10 銭だけ下げリスク限定でのエントリーを試みましたがワークせずとなりました。当然損失も限定的で -15.7pips の損失となりました。

（2）EURAUD の買い（シグナル点灯 5月9日）TP=1.6017、SL=1.5845

先週執筆時点のレートが 1.58742、その後のレンジは 1.56962～1.59024 でした。このストラ

テジは翌日 11 日に SL がついています。こちらでもエントリー時点に比べて推奨とは逆方向に動いていたため、損失は限定的という理由での選択でしたが、 $-19.7\text{pips}$  の損失となりました。

(1) も (2) もいったんチャートパターンをブレイクし、当初は思惑通りに動いていたところ、その後すぐに逆方向に動きました。当初エントリーに比べ SL が近い損失限定型のストラテジでしたが、テクニカルな観点からは、いったんチャートパターンをブレイクした後に、そのブレイクを否定するような値動きとなった場合には採用しない方がよいかもしれません。1 回だけの判断で結論を出すことはしませんが、テクニカルな観点ではそもそもお勧めはできないものです。ただ、リスクの観点からは、再び思惑通りに動いた場合の利益が大きく損失は限定的というのは魅力的です。こうしたケースでどのように扱えばいいか、また同様のケースが発生した場合に注意深く観察したいと思います。

### (3) EURGBP の売り (シグナル点灯 5 月 9 日) $TP=0.8704$ 、 $SL=0.8827$

先週執筆時点のレートが  $0.87522$ 、その後のレンジは  $0.87153 \sim 0.88358$  と、執筆時点直後からじり高となり、その日のうちに SL に到達してしまいました。この (3) に関しては通常のブレイクを採用しましたが、10 日の英中銀 MPC でコンセンサス通りに現状維持ではあったもののポンドが売られ、結果として EURGBP は買われています。

このケースでは別の意味で課題を与えてくれています。イベントリスクですね。米国雇用統計や主要中銀の政策金利発表前にはポジションを取らない、軽くするという対応でイベントリスクを軽減させますが、選択肢としてそもそも選ばないということも考えるべきだったかと思います。これも今後の選択時の課題としておこうと思います。

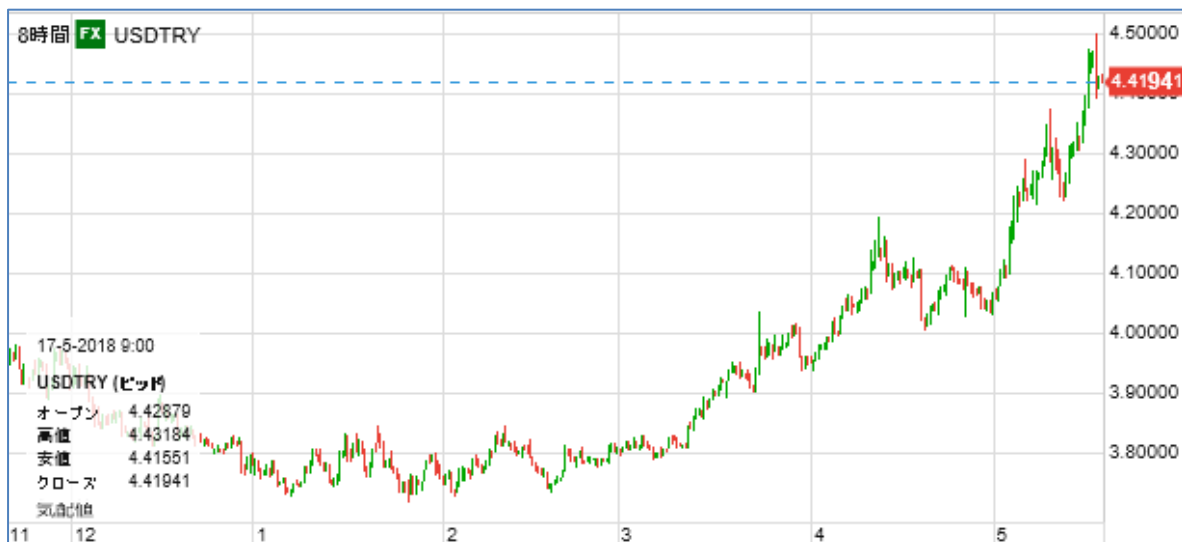
## ■米金利上昇と新興国通貨売り

今週は米金利上昇とその影響を受けやすい通貨ペアについての話ですが、まず米国 10 年債の年初からの先物価格 (期近つなぎ) をご覧ください。



利回りでは昨日 3.095%まで上昇していますが、先物では債券価格として表示されていますので、この間 10 年債価格が下がり金利が上昇していることがわかります(債券価格下落＝利回り上昇、債券価格上昇＝利回り下落)。

こうした米金利上昇局面では、それまで高金利の新興国に投下されていた投資資金が米国へと還流する動きが見られ、エルドアン大統領に対する懸念とも相まってトルコリラは史上最安値を連日更新する動きとなりました。こちらも同期間のチャートをご覧ください。



年初の水準から既に 19%近いトルコリラ安を演じています。しかし、もっと凄まじい通貨ペアもあります。最近新聞でも話題になっていますが、アルゼンチンペソです。こちらは年初から 36%を超えるペソ安です。政策金利も 40%ととんでもない水準ですが、金利を超える勢いでの通貨安となっています。

サクソバンク証券では多くの通貨ペアを扱っていますが、さすがにアルゼンチンペソの取り扱いはありませんでした。5か月半で36%の通貨安、そして政策金利は40%と、もし取引できるとしたら、皆さんは買うでしょうか？あるいは売るでしょうか？

## ■今週の特徴

今週は珍しく選択に悩む週となりました。今までと同様に4時間足での選択ですが60%にしてようやく選択肢として適当な数が選ばれました。しかし、既にシグナルが点灯してから思惑通りに動き、先週とは逆にTPの水準に近づいている通貨ペア（例：USDJPYの買い）を外し、さらに先週同様のチャートブレイク後に戻しているケースを外すとしたら、残った通貨ペアは3つです。

今週は理由付けをすることも出来ませんので、この3つを選択することにします。残り物ピックアップといったストラテジですが、残り物には福があるかどうか？順に見て行くこととしましょう。

## ■今週のピックアップ

### （1）GBPCHFの買い



チャートパターンとしては「下降ウェッジ」の上抜けによるGBP買いです。ちょうどシグナルが出たばかりで今朝の摘み立てストラテジですね。材料的にも目立った材料は英国もスイスも特にありませんので、そうした懸念は無さそうです。チャートパターンとしても比較的きれいな下降ウェッジとなっていますので今週のトップバッターはテクニカルには十分に期待できそうです。

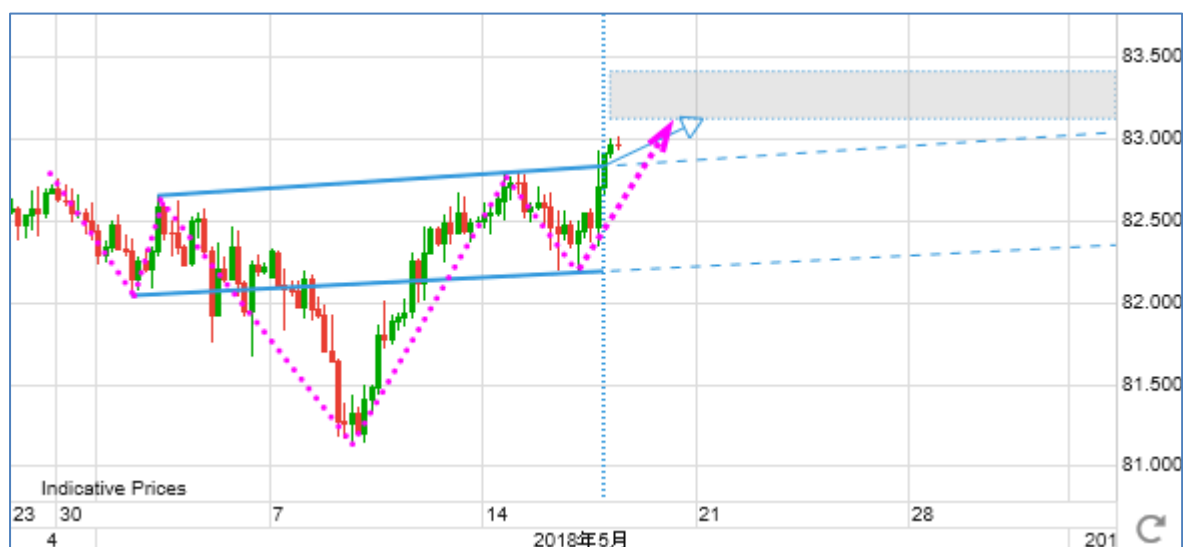
す。10 時間以内にグレーのゾーン（下端 1.3602）をターゲットとする動きが指摘されています。

また 1 週間程度の比較的短期売買なので、スワップ金利はあまり関係ありませんが、スイスはマイナス金利を実施している国の中でも圧倒的なマイナス金利で  $-1.25\%$  となっています。GBPCHF に限らず CHF 売りはポジションを保有しやすいというメリットがありますね。実際に長期的にも CHF は主要通貨に対して売られやすい傾向が見られます。

戦略：GBPCHF の買い（シグナル点灯 5 月 17 日）執筆時点 1.35567

TP=1.3602、SL=1.3462

## （2）AUDJPY の買い



チャートパターンとしては「逆ヘッド&ショルダー」の上抜けによる AUD 買いです。もともと引かれている青のラインは上側が逆ヘッド&ショルダーのネックラインを示していますが、下のラインは逆ヘッド&ショルダーの左右の肩（ショルダー）を示しているに過ぎません。本来的な逆ヘッド&ショルダーのパターンをピンクの点線で追記してあります。思いのほか TP までの値幅が狭いのですが、もうちょっと上を狙ってもいい形に見えます。こちらは 23 時間以内にグレーのゾーン（下端 83.12）をターゲットとする動きが指摘されています。

戦略：AUDJPY の買い（シグナル点灯 5 月 16 日）執筆時点 82.969

TP=83.12、SL=82.18

## (3) CADCHF の売り



チャートパターンとしては「上昇チャンネル」の下抜けによる CAD 売りです。比較的長期に渡る上昇チャンネルですが、気になる点もあります。まず、上昇チャンネルのサポートラインを下抜けたものの、再びチャンネル内に戻ってきているという動き。これは先週のストラテジで失敗したパターンでもあります。また CAD 売りですから相手の CHF は買いです。CHF の買いは上述の通り投資家には避けられやすい組み合わせです。

テクニカルにダマシっぽい動きにスイス買いと個人的にはあまり選びたくないものですが、今週は選択肢が少ないため3つ目はこのストラテジを選ばざるを得なかったということです。無理に選択することも無いのですが、経過を見て行きましょう。65 時間以内にグレーのゾーン（上端 0.7666）をターゲットとする動きが指摘されています。

戦略：CADCHF の売り（シグナル点灯 5 月 15 日）執筆時点 0.78289

TP=0.7666、SL=0.7866

### 【本レポートについてのご注意】

■本レポートは、投資判断の参考となるべき情報提供のみを目的としたものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

■本レポートは、作成時点において執筆者およびサクソバンク証券（以下「当社」といいます。）が信頼できると判断した情報やデータ等に基づいて作成されていますが、執筆者および当社はその正確性、完全性等を保証するものではありません。また、本レポートに記載の情報は作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。

■本レポート内で示される意見は執筆者によるものであり、当社の考えを反映するものではありません。また、これらはあくまでも参考として申し述べたものであり、推奨を意味せず、また、いずれの記述も将来の傾向、数値、投資成果等を示唆もしくは保証するものではありません。

■お取引は、取引説明書および約款をよくお読みいただき、それらの内容をご理解のうえ、ご自身の判断と責